令 和 7 年 4 月 2 4 日

牛肉の需給予測について

1　出荷頭数・生産量

出荷頭数の予測は、品種毎に出荷までの平均的な飼養期間を遡った出生頭数を牛個体識別情報から抽出し、算出している。なお、１日当たり出荷頭数ベースの前年同期比は、と畜場稼働日数を加味して、算出している。また、生産量の予測は、上記の出荷予測頭数に、平均枝肉重量等を乗じて算出している。

この結果、

○生産量は、４月は、和牛及び交雑種の出荷頭数は増加するものの、乳用種の出荷頭数は減少が見込まれることから、前年同月並み、５月は、交雑種の出荷頭数は増加するものの、和牛及び乳用種の出荷頭数は減少が見込まれることから、前年同月をやや下回ると予測する。

○３カ月平均（３～５月）でも、出荷頭数、生産量ともに前年同期をわずかに下回ると予測する。

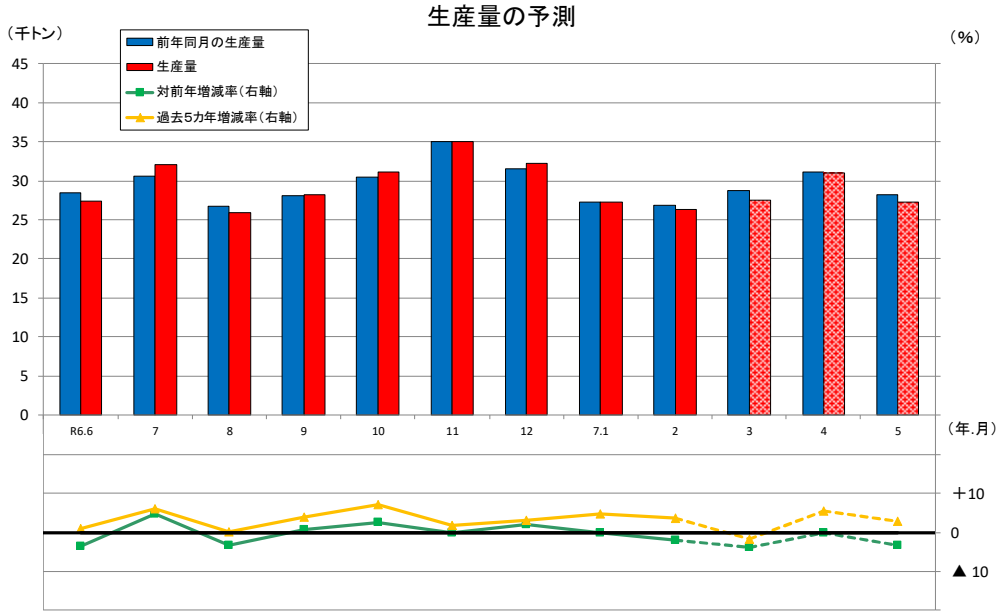
（千頭、千トン）

	出荷頭数	生産量
令和7 年　3 月　（見込み）	87.1　（ 96.7%）　[96.7%]	27.6　（ 96.1%）
4 月　（予測）	96.9　（ 99.8%）　[99.8%]	31.1　（ 99.8%）
5 月　（予測）	85.8　（ 97.0%）　[96.9%]	27.3　（ 96.7%）
3～5 月　平均	89.9　（ 97.9%）　[97.9%]	28.7　（ 97.6%）

注：（　）は前年同期比、以下全ての表において同じ。［　］は１日当たり出荷頭数ベースの前年同期比。

（参考）品種別の出荷頭数　（千頭）

	和牛	交雑種	乳用種
令和7 年　3 月　（見込み）	41.4　（ 99.2%）	20.9　（ 99.6%）	24.3　（ 92.8%）
4 月　（予測）	48.7　（104.5%）	23.2　（103.9%）	24.4　（ 90.9%）
5 月　（予測）	41.9　（ 99.1%）	20.9　（101.2%）	22.4　（ 92.3%）
3～5 月　平均	44.0　（101.1%）	21.7　（101.6%）	23.7　（ 92.0%）



注：網掛け、点線部分は予測値

2　輸入量

輸入量の予測は、国内の主な輸入事業者で構成される輸入動向検討委員会における輸入数量の検討結果を予測値としている。

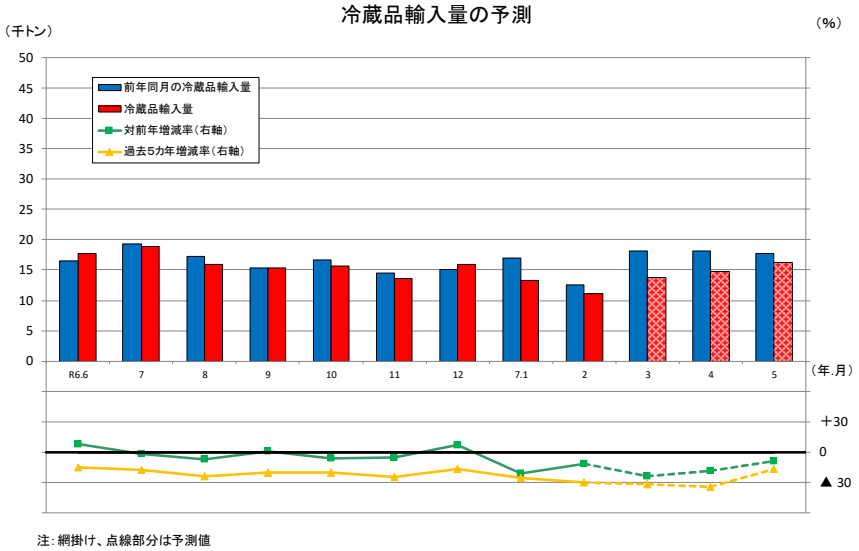
この結果、

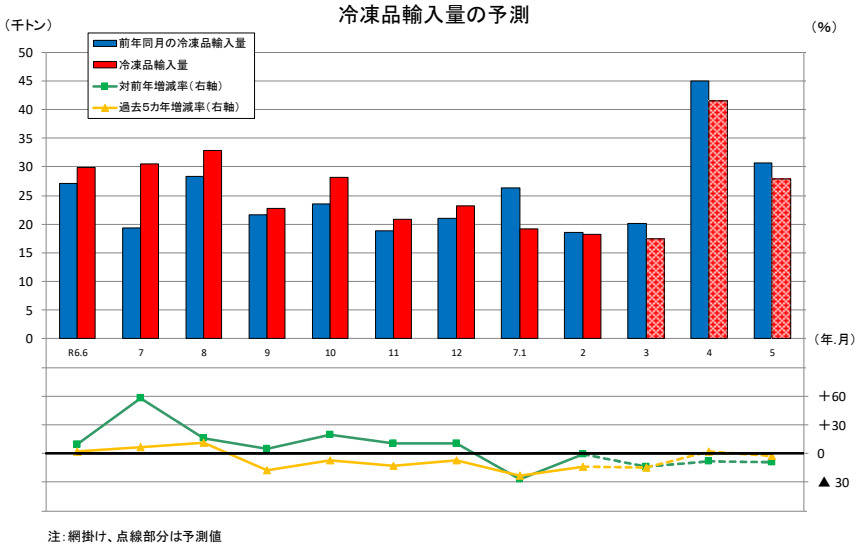
○冷蔵品は、円安や現地価格の高止まりの影響等により、主要輸入先を含むほとんどの輸入先からの輸入量の減少が見込まれること等から、４月は大幅に、５月はかなりの程度、いずれも前年同月を下回ると予測する。なお、３カ月平均でも、前年同期を大幅に下回ると予測する。

○冷凍品は、円安や現地価格の高止まりの影響等により、４月は、主要輸入先のうち米国を除くほとんどの輸入先からの輸入量の減少が見込まれること等から、前年同月をかなりの程度下回ると予測する。５月は、主要輸入先を含むほとんどの輸入先からの輸入量の減少が見込まれること等から、前年同月をかなりの程度下回ると予測する。なお、３カ月平均でも、前年同期をかなりの程度下回ると予測する。

（千トン）

	冷蔵品	冷凍品	合計
令和7年　3月　（見込み）	13.7　（ 75.5%）	17.4　（ 86.2%）	31.1　（ 81.1%）
4月　（予測）	14.8　（ 81.4%）	41.5　（ 92.2%）	56.3　（ 89.1%）
5月　（予測）	16.2　（ 91.2%）	27.9　（ 90.8%）	44.1　（ 90.9%）
3～5月　平均	14.9　（ 82.6%）	28.9　（ 90.5%）	43.8　（ 87.6%）





3　出回り量・期末在庫

出回り量及び期末在庫の予測は、機構が実施している食肉等保管状況調査から算出した直近月の期末在庫及び前述の生産量、輸入量をもとに、時系列解析の手法により算出している。

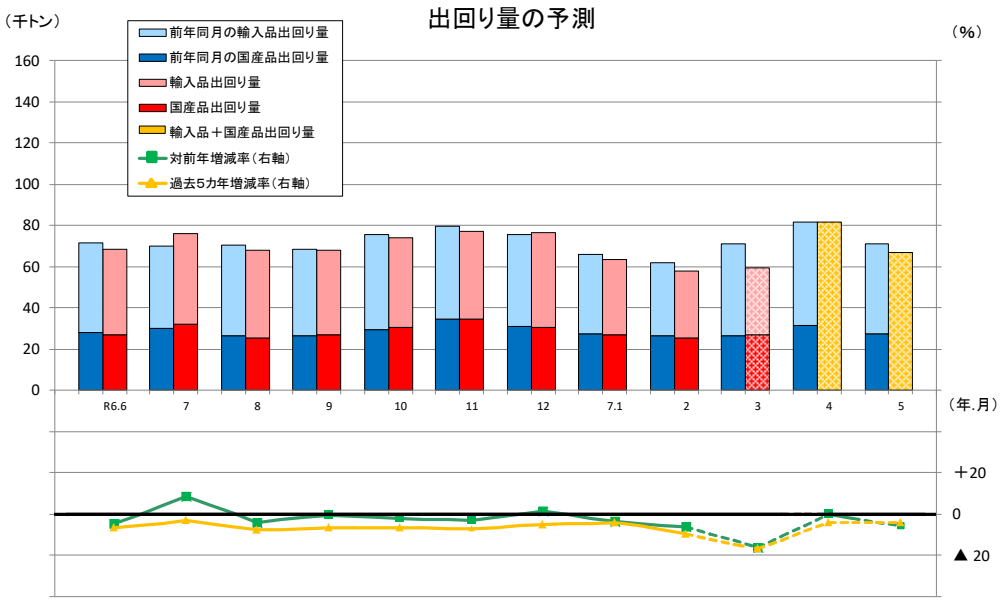
この結果、

○出回り量は、４月は前年同月並み、５月は前年同月をやや下回ると予測する。

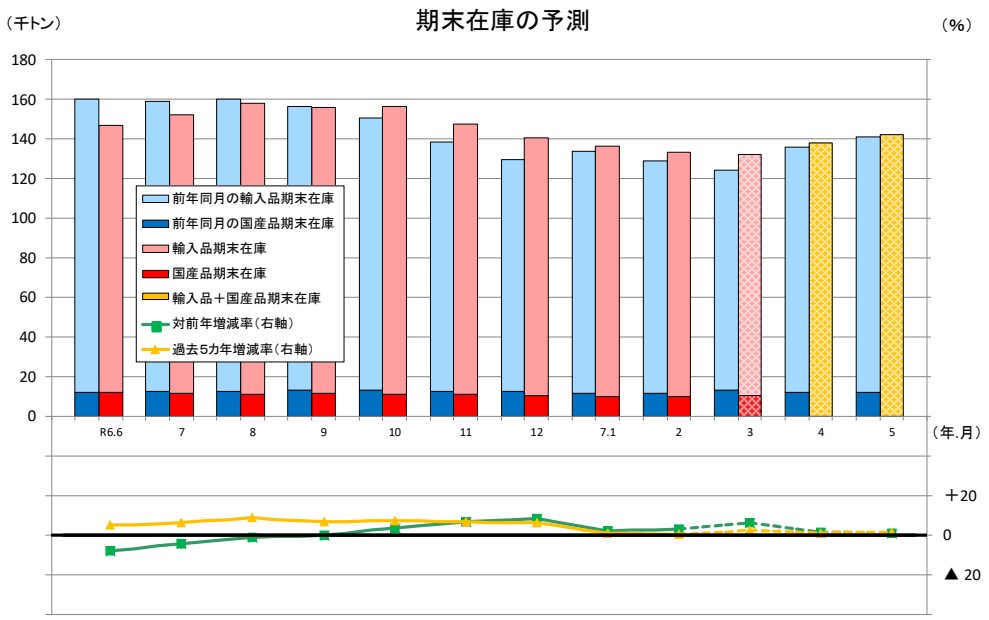
○期末在庫は、４月、５月ともに前年同月をわずかに上回ると予測する。なお、過去５カ年の同月平均との比較でも、４月、５月ともにわずかに上回る（４月：１.１％増、５月：１.２％増）と予測する。

（千トン）

	出回り量			期末在庫		
		うち輸入品	うち国産品		うち輸入品	うち国産品
令和7年3月（見込み）	59.5（83.8%）	32.4（72.3%）	27.2（103.5%）	132.2（106.3%）	121.7（109.4%）	10.5（80.2%）
4月（予測）	81.7（99.9%）			137.8（101.3%）		
5月（予測）	66.8（94.1%）			142.4（100.8%）		



注：網掛け、点線部分は予測値



注：網掛け、点線部分は予測値

＜予測手法＞

○　出荷頭数は、黒毛和種・乳用種雄牛・交雑種については、家畜改良センターの牛個体識別情報から、「月齢別・牛の種類・性別のと畜頭数」のデータを用いて、牛の種類の出荷月齢パターンを把握し、「牛の出生年月」をもとに予測。上記以外については、過去の月別出荷頭数の実績等をもとに予測。１日当たり出荷頭数ベースの前年同期比は、と畜場稼働日数を加味して算出。なお、必要に応じ、気候条件や家畜疾病の発生等を考慮し、補正を行う。

○　生産量は、牛の出荷予測頭数に過去の月別枝肉重量の実績をもとに算出した平均枝肉重量を乗じて部分肉換算率を７０％として算出。

○　輸入量は、機構の実施している国内の主な輸入事業者で構成される輸入動向検討委員会において、各社の輸入数量見込みをもとに検討のうえ算出。

○　出回り量は、過去の月別出回り量等の実績値をもとに、ARIMA モデル（時系列解析の手法の一つ。令和６年４月からは更新モデルを使用）を用いて予測。

○　期末在庫は、期首在庫に、上記手法で算出した当該月の生産量及び輸入量を加え、出回り量を控除して算出。なお、当月予測の期首在庫は、機構が実施している食肉等保管状況調査から算出している。また、食肉等保管状況調査の調査対象倉庫は、毎年度見直している。

お問合せ先
独立行政法人農畜産業振興機構
畜産振興部　畜産流通課
山﨑、丸吉
TEL 03-3583-4302
FAX 03-3583-8714